

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

ホームページ

<http://shakaisushin.cool.coocan.jp/>

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話/FAX(03)3299-5367
振替 0010019158431 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 (郵送 350円・メール 175円)

6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

資本主義経済体制の「危機」

滝野 忠……………2

G7の経済論議はウスツペラ

現代政治と参院選

編集部……………3

―「立憲主義」について―

革命五八年の年

訳・富山 栄子……………5

―キューバ共産党第七回大会閉会にあたっての

フィデル・カストロ・ルスの演説―

社労士 競争はげしく……………6

―ブラック土業の暗躍を許すな(下)―

びわ湖一周デモ「私も何かしないではられない!」 稲村 守……………9

―反原発デモ・史上初貫徹!五日間で七〇〇人参加―

米軍元海兵隊員による沖縄女性殺害……………10

―十分な対応と真相究明、米軍の撤退を求める要求書―

読者からのおたより……………11

旬刊 社会通信

NO. 1218

二〇一六年六月一五日号

二〇一六年六月一五日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

資本主義経済体制の「危機」

G7の経済論議はウスツペラ

世界の政治と経済は毎日が国際会議だ。二国間、多国間の交渉ごとはふえる、それ以上に国際機関・機構の数はねずみ算のようにふくれ上がっていく。交通・通信手段の発達は会議の数をさらにふやす。こうして金は国際会議に湯水のように消費される。舛添のようにセコイやり方でなく、堂々と。

G7はなにを議論したのか。G7の労働者ばかりか、新興国、発展途上国の労働者をどう搾取し、いかに「共同の」支配を強めるかが、今のG7の眼目である。首脳宣言「前文」はこう述べる。

①拡大した地政学的な紛争、テロ及び難民の流れが、世界の経済環境を複雑にしている。暴力的過激主義、テロリストによる攻撃及び他の諸課題の増大は、既存のルールに基づく国際秩序、全人類に共通する価値及び原則に対する深刻な脅威をもたらしている。

②G7は、これら諸課題に対処するための国際的な取り組みを主導する特別な責任を有する。

G7は、発足時（一九七五年）、発展する社会主義世界体制を抑え、あわよくば解体をとの「反社会主義同盟」としてあった。一九九〇年前後、反革命が世界を覆った。G7はこれ以降、性格を変えた。圧倒的な経済力、それに基づく軍事・政治・文化力をもつ米国を中心とする「帝国主義同盟」へである。

前文は、既存の国際秩序、全人類に共通する価値、原則に脅威をもたらすものに、G7は特別な責任をもつという。そして全人類に共通する原則に、「自由、民主主義、法の支配及び人類の尊重」をあげる。ここでハッキリいつていることは、G7がもつ価値観・原則（資本主義）に反する主張、行為はだんこ粉碎するということだ。

G7最大のテーマは世界経済の発展とされた、動揺きわまりないからだ。世界経済の「下方リスク」の本当の原因はなにか。宣言がいう中国における「鉄鋼の世界的規模での過剰生産能力」、「非経済的な由来による潜在的ショック」（英国とEU、地域学的紛争、テロ、難民）などではけっしてない。〇八年の「リーマン恐慌」を救ったのは中国ではなかったか。中国は「改革・開放」（資本の本源の蓄積）の開始から、たった三〇年で、世界の富の約二〇%弱を占めるまでに発達した。しかし、いつまでも成長は続かない。これは常識だ。韓国、台湾も生産力を伸ばした。

この結果、世界経済に何が起きたか。過剰生産による慢性的不況（恐慌）状態である。この「恐慌」を克服しようと、米国、EU、日本はゼロ金利を導入するばかりか、金融の量的・質的緩和策を実行した。おかねがふえればインフレになる。これは経済学のイロハとしてあった。しかし、物価上昇はごくわずか、インフレにはほど遠い。資本主義という経済体制が機能不全に陥った。生産力と生産関係の矛盾が、資本主義

に代わる新しい社会、社会主義社会を求めるまでに「成熟」したということである。金融市場にはお金が氾濫している。にもかかわらず貨幣資本家は、新しい企業に投資することよりも、むしろ彼の金を寝かせておくこと（企業の内部留保金の異常な積み上がりはその例証）によって、貨幣資本家は全経済が彼らにどんなにあてにならないものかと思えるかということを告白しているのだ。新しい投資とあらゆる投機に対する右のような引つ込み思案のなかに、なぜ急性の恐慌にいたらないかの主要根拠があるのだ。

安倍晋三は天皇主義者であると同時に自由主義の化身、一八〇〇年代のフランスのルイ・フィリップ、ルイ・ナポレオンのような人物だ。単純で尊大ぶった無能な人物であり徹底的な浅薄漢である。だから、安倍の排泄物に学者、経済界、知識人、ジャーナリストが群がり、大きなそとして小さな利権あさりに熱中することで、安倍をさらにオバカさんにしていくのである。

日本は中国に追い越されたとはいえ、二兆ドル弱の外貨準備、八六兆ドル強の海外資産をもつ帝国主義国家としてある。「協調」「協力」の背後では世界大競争が展開されているのであるから、安倍は「国家元首」の待遇で世界を飛び回る。外遊は四一回、のべ九二ヶ国にもなり、八七億七四〇〇万円の官金が消費された、そのお伴は四六四三人にもなり、その多くが財界である。

彼の外交はわかりやすい、金で相手国をひっぱたき、利権を手にするやり方である。外交は内政の継続そのものとしてある。外交はすべて「秘密」である。安倍とオバマは「広島訪問」を演出した。オバマの任期はあと半年、沖縄では怒りが再爆発する事件が起きた。憲法九条改悪の土台をつくりたいとする参院選は間近だ。

オバマの米国は戦争法に歓喜する。外交はタシ算とヒキ算からなる。それがオバマの「広島訪問」の本質だ。まさに自民党の選挙応援である。

首脳宣言は、G7が主役でなく、中国の習近平、ロシアのプーチン、北朝鮮の金正恩氏などであることをすけてみせてくれる。これら以上の影の主役はトランプ氏ではなかったか。

（滝野 忠）

現代政治と参院選

—立憲主義について—

野党四党は「平和主義・民主主義・立憲主義を守ろう」「安倍暴力政治―議会内多数派政治―打破」の国民世論に押され、三十二の一人区すべてで統一候補となった。野党四党のなか、憲法をまるごと大事にするのは、社民党と共産党の二党。民進、生活は憲法改悪を目ざし、独占資本と独占資本を擁護する政治勢力―政府権力、官僚、ブルジョア・マスコミ、日本生産性本部、そして彼らに政策を売ることを生業（なりわい）とする学者・文化人（有識者）―が、資本主義という生産様式を「持続」させるためにつくった党だ。極悪人は小沢一郎や山口二郎君だ。そんな輩が「進歩的民主主義者」を装い、彼らの自論―憲法改悪―に、「護憲」に邁進する人びとの人のよさ

につけこむ卑劣さに虫酸(むしず)が走る。

民主、いま民進に統一的な世界観、哲学はない。議員バッチを胸にしたい、ただそれだけであるからだ。だから「つれづれ」でしかなく、流れに、つくられた世論に動く、今度の統一候補についてもいえる。「共産とはやれない」が、衆院北海道五区補選の「善戦」で、統一候補たてれば「勝てるかも」と衆院選もと相なった。自民の機関紙発売、産経は「ダブルも」と脅迫した。民主の支持基盤は連合。連合は参院選比例に十二人の組織内候補をたてる。前回(一三年)の民主獲得票は七一〇万、前々回(一〇年)は、一八四〇万。全員当選には最低千五百万票が必要となる。民主(民進)は比例に二〇人をたてる。当選は全体票を基礎に個人票の多い者順だから、連合組合は己の候補の「個人票」に力をつくす。組織の引き締めが中心で民進全体への関心は多くない。

通信事務所は、一三年衆院選で生き残った民主、いま民進 長妻(渋谷)の選挙区にある。いまだ、「民進・長妻」の個人、そして参院選候補―蓮舫・小川ポスターのはり出し、宣伝はない。共産、自民、公明は宣伝・扇動しつづけているのである。東京は定数が五から六になった。前回選挙は自民二、共・公一、それに無所属「統一」候補の山本太郎君。山本氏は生活へ。前々回の川田君はみんなへ、二期め当選後、維新へ。世間では恥ずかしく、近所隣にあいさつできないことが政界では当たり前のようにまかり通っていく。寂しく、悲しく、わびしい怒りがいっぱいだ。

憲法の「危機」がいわれる。その原因はなにか。憲法を守り支えるものは言葉ではない。労働者の力が憲法の理念を守ってきたのである。したがって、憲法の「危機」とは憲法を守る、支える力―もつといえれば今のブルジョア憲法をさらに発展させ、新しい憲法をつくる力―が小さくされた、そういうことである。

「立憲主義」とはなにか。憲法は権力者をしるが一般的理解であるらしい。立憲主義とは、人民主権の発露である。かつては、人民の蜂起が憲法制定会議をつくり、被抑圧者・被搾取者の要求を憲法に書き込ませた。権力者の支配を打ち破り、ブルジョア民主主義の憲法となった。

マルクスは『フランスにおける階級闘争(一八四八年から一九五〇年まで)』でこう述べる。

「従来憲法というものは、社会の変革過程がある休止点に達し、新しく形づくられた階級闘争が確立してしまい。支配階級内で抗争する諸分派がある妥協点を見つけて、それにより彼ら相互間の闘争をつづけながらも同時に、疲労しきった人民大衆を闘争から閉め出しておけるようになった場合には、はじめて作成され採用された。」

「憲法の解釈をするものは憲法をつくったものではなくて、憲法を受け入れたものである、ということ。そしてまた、坊主が聖書の正式の解釈者であり、裁判官が法律の正式の解釈者であるように、ボナパルトと国民議会の王党的多数派こそ、憲法の正式の解釈者であるということ」

憲法を仕方なく受け入れた権力者どもは、憲法を修正することに全力をつくす。これもまた立憲主義である。ここに、憲法を守る力と変える力の階級闘争が起きる。

革命 五八年の年

— キューバ共産党第七回大会閉会にあたっての

フィデル・カストロ・ルスの演説 —

なぜ社会主義者になったか

同志の皆さん、危機に際して、どんな国民であれ、一国民を率いることは超人的努力です。国民がいなければ変革は不可能でありましょう。革命的国民自身によって選ばれ、委任を得た千人を超す—九百何人と説明がありました—but 代表者が結集する今大会のような集会にあつては、集会自体がだれにとつても生涯に受けた最大の榮譽を意味しています。(拍手) この上に革命家であるという特権、つまり、われわれの自らの意識の結実が加わります。(拍手)

私はなぜ社会主義者になったか、より明確に言えば、なぜ共産主義者になったか？です。この用語は貧者、すなわち人間の労働、才能、エネルギーから生まれた物的財産のすべてを剥奪されて以来、丸裸にされた者たちを搾取する権限を持った人々によって歴史上もつとも歪曲され、誹謗中傷を受けてきた概念を表すものです。人はいつからこの窮地に生きているか、無限の時間にわたっています。会場にいる聴衆の皆さんに説明するまでもないことはわかっていますが、なかには説明のいる人がいるかもしれません。

私が無知でなく、過激主義者でもなく、盲目でもなく、自分の勘定のために経済を学んで自らの思想を習得したのでもないことを理解いただくため、簡単に話します。法律と政治学を学んでいた大学生のときに個人的教師がいたことはありません。法律のほうが重要でしたが、もちろん当時は二〇歳くらいでスポーツと山登りに熱中していました。マルクス・レーニン主義の学習を手伝ってくれる教師はなく、理論を知っていました。革命から七〇年たつてレーニンの著作は暴行を受けました。何という歴史の教訓でしょうか！ ロシア革命、植民地主義とその同伴者である帝国主義に反対する闘争において巨大な一步を意味した偉大な社会革命、人類がこのような事業をもう一つ、実例を獲得するために、さらに七〇年を経るはならないとだれもが確信しているはずで

「地球の危機」

しかし、問題は今日、地球に差し迫っている最大の危機です。それは地球の平和を壊し、地上での人間生活を不可能にさせる力をもつ近代兵器の破壊力です。

ディノサウルスが消滅したように人類という種が消滅するかもしれません。新たな形態の知的生活のための時間があるかも知れないし、あるいは多くの科学者が認識しているように太陽の熱が上がって太陽系のすべての惑星とその衛星を溶かすまでになるかもしれません。こうした理論のうち真実がどれであれ、われわれ素人が無視しない理論を、行動的な人はもつと学び、現実には適合するようにしなければなりません。人類がはるかに長い時空間を生き延びるなら、将来の世代は現代のわれわれよりも

つと多くのことを知るでしょうが、まず大問題を解決しなければなりません。つまり、必要とする飲料水と天然資源の限界に許しがたいほどに相容れない現実と向き合う何十億人という人類をどう食べさせていくかという問題です。

皆さんの中には私の演説に政治が出てこないと思っっている人がいくらか、あるいは多くいるかと思えます。しかし、信じてほしい、政治はこうした穏健な言葉のなかにあるのです。こうした現実には直面したわれわれ自身をもつと多くの人々に気にかけてほしいし、禁断のりんごを食べているアダムとイブの時代のように生き続けたいではないと思えます。手の届くところに科学技術もなく、雨もなく、貯水池もない、今では砂に覆われてしまった地下の貯水層以外にないアフリカの干上がった人々をだれが食べさせるのでしょうか？ 気候への取り組みに調印したほぼ全世界の各政府が何を言うか、これから知ることになります。

この問題を恒常的に繰り返さねばなりません、私は絶対必要なこと以上は話したくありません。

キューバ国民は勝利する

もうすぐ私は九〇歳になります。(拍手) こんなことを考えたことはありませんでした。努力の結晶でもありませんでした。運命の気まぐれでした。私はまもなくその他の人々と同様になるでしょう。われわれにはすべて順番が来ますが、キューバ共產主義者たちの思想は残るでしょう(拍手)。熱情と尊厳をもって働き、人類が必要とする物質的・文化的富を生産することができれば、地球上に証左としてその思想は残るでしょう。だから、これらを獲得するために休戦することなく闘わなければなりません。ラテンアメリカと世界のわれわれの兄弟たちに対しては、キューバ国民は勝利すると伝えなければなりません。(拍手)

この会議場で話すのはこれが最後かもしれませぬ。さきほど私は、大会に審査を委ねられた候補者全員に投票しました。今大会へのご招待ならびにご清聴いただいた光栄に感謝します。みなさん全員を祝福します。まずラウル・カストロ同志の目を見張るほどの努力に祝福します。(拍手)

われわれは前進します。完璧なものにしなければならぬものを完璧にしていきたいと思います。マルティ、マセオ、ゴメスのように一片の蔭りもない忠誠心と団結した力をもって止まることのない行進を続けます。(拍手)(二〇一六年四月一九日、国家評議会)

(訳・富山 栄子)

社 労 士 競 争 は げ し く

―ブラック士業の暗躍を許すな(下)―

「社長の味方」でもない さらに、ブラック士業の収益戦略を見ていくと、実は、ブラック士業は、社長の味方ですらないということが見えてくる。というのも、彼らは、ブラック企業と労働者の間の紛争を一つのビジネスチャンスとして考えているだけだからだ。

ブラック士業は、会社が勝とうが負けようが、事件を受任さえすれば顧問料および

訴訟費用などで儲けることができる。弁護士の場合、通常、訴訟を提起する際は、着
手金として請求額の数パーセントを弁護士に支払うことが多い。仮に一〇パーセント
だとすれば、二〇〇万円の請求を行うだけで、二〇〇万円を手に入れることができ
る。裁判で違法で支離滅裂な主張を展開するはめになったとしても、争いが起こりさ
えすれば必ず儲かる。

社労士の場合にも、係争中の「顧問料」のほか、社員を脅す際の「面談料」、パワ
ハラのやり方を教える「相談料」、書面を送る際の「書面送付料金（一枚単位で取引
されている）」などが膨大に発生するのだ。

だから、彼らは社長を炊きつけて、負けるような無茶な主張を展開するよう指南す
るのだ。アルバイトを雇っておらず、彼らを「業務委託契約」などという無茶の主張
にも、うなずけるというものだろう。

経営者の狙い もしこのような「脅し」を行っていることが明らかになれば、企業の
イメージは相当悪化することは火を見るより明らかである。さらに、当然、彼らに支
払う顧問料も安くはない。顧問料や裁判費用は、すぐに残業代の支払いに応じれば、
負担する必要がなかった費用である。

それにも関わらず、なぜ経営者はブラック士業を雇うのか。それは、すでに述べた
ように、ブラック士業を活用して労働者を黙らせることができれば、「勝ち」だから
である。社労士や弁護士に「訴える」と脅された労働者が請求権を放棄すれば、会社
は残業代の支払いから免れることができる。

これに加え、経営者側には合法的に労働者を扱いたくない事情もある。すき家の場
合、労働者が諦めず争った結果、最終的に全国の社員一人以上に対して、過去二年
分の残業代を支払うこととなった。これには、億単位の金額がかかっていると思われ
る。しかし、ブラック士業を雇い、その脅しに労働者が屈服したとしたら、支払いは
数百万ないし数千円で済む。それゆえ、すき家はブラック士業に頼ったのである。
労働者が「黙れば」経済的にも得だったわけである。

同様に、解雇の場合にも合法的に行う場合には退職金の上乗せなどが必要になる。
この場合にも、「安く解雇がしたい企業」がその経費を削ろうとして、ブラック士業
を頼るのだ。

ブラックが急速に増加 合法的な支払いを拒んだ結果、一か八か、大きなリスクを背負
って労働者を脅す路線に乗り出していくというわけだ。この社長の「決断」を積極的
に後押しし、ビジネスチャンスを広げているのが、今問題になった社労士のように、
ブログ等で「残業代を支払わなくてよい」などと宣伝しているブラック士業たちなの
である。

さらに、弁護士や社労士などがブラックな労務管理に加担する原因として、士業の
数が急速に増加していることがあげられる。とくに社労士は急激に合格者数が増えて
いる一方で、通常の保険管理の業務などは増えていない。そこで、社労士界全体とし
て、「労使紛争」への介入を新たなビジネスチャンスにしていくこうとしているのだ。
もちろん、まともに新しいビジネスを行っている社労士もいる一方で、右に見たよう

な「紛争で儲ける」いかがわしいビジネスモデルを構築する新手も増えてきた。

ブラック士業への対処法 では、このブラック士業問題の解決法はどこにあるのか。まず、業界団体である日本弁護士連合会(日弁連)や全国社会保険労務士会連合会は、違法行為を指南する会員を厳しく処分すべきである。そして、労働者自身がこのような「脅し」を受けた場合は、すぐに私たちNPO法人 POSSE の無料窓口や、ブラック企業被害対策弁護団、日本労働弁護団所属の弁護士に相談していただきたい。ブラック士業の唯一の勝ち目は諦めさせることであり、彼らの主張には一切の法的根拠が存在しないので、適切に対処すれば、その請求から逃れることができるのはもちろん、むしろ会社に対して適切な責任を取らせることが可能にもなるのだ。

社員をうつ病に罹患させる方法(ブラック社労士投稿日 一五年一月二四日)

Q 当社にいるモンスター社員は、上司に逆らう、遅刻する、タバコさぼりなど行動が異常です。なんとかうつ病にして会社から追放したいのですが、いい方法ありますか。もちろん会社が法的に責任取らなくていい方法に限りです。

A 結論から言えば可能です。少し手間がかかります。まずバツを与えるべき根拠を就業規則に盛り込みましょう。

①就業時間中の喫煙の禁止、

②上司に文句を言うことの禁止

③遅刻の禁止

そしてこれから違反した場合には厳しく処罰を与えることを決めます。そして指導として本人に反省文書を書かせることです。これもバツの一つです。適切な合法的なパワハラを行ってください。適切にして強烈な合法パワハラ与えましょう。

①まずノートと筆記具を用意します。

それから、ノートに自分が今まで行ってきた失敗や他人へ迷惑をかけたと思っっていること、不快に感じたこと、悲しかったことなどを思い出せるだけ書き、その事柄に対して自分に非があるように関連付けて考えて書いていくことを繰り返しましょう。

うつ状態というのは自分を責める病気なので、後悔の量が多ければ多いほど(過去に否定的な執着するほど)発症し易いです。

②次にモンスター社員に降格減給与えて経済的にダメージ与えます。適切な理由でつち上げましょう

③そして方が一人が自殺したとしても、うつの原因と死亡の結果の相当因果関係を否定する証拠を作っておくことです。なぜなら因果関係の立証は原告側にあり、それを否定する証拠を作成しておくことは、会社の帰責事由を否定することになるからです。したがってそれができればうつ病自殺されても裁判で負けることはありません。

④本当にうつ直前になったら、休職命令与えてもいいでしょう。休職満了による退職でも可能です。

その際には企業法務、労働法務に詳しい特定社労士のサポートを得ることが必須となります。モンスター社員に精神的打撃与えることが楽しくなりますよ。 以上

(茨城ユニオン・ニュースレター)

びわ湖一周デモ 「私も何かしないではいられない！」

―反原発デモ・史上初貫徹！ 五日間で七〇〇人参加―

鳴りやまぬガラケイ びわ湖一周デモのことが新聞に載ってからの二週間前から、私のガラケイは三〇分おきに朝となく、昼となく、夜となく鳴りやまなくなつた。「なかなかいい企画だ。ぜひ参加したい」「七五歳だが、デモは足が悪くなつてできないが車の運転はできるので、三日目の車デモに参加したい。堅田から彦根まで朝行きます（かなり遠い。大津から神戸位の距離）。何かしないではいられない」など、ほとんどこのデモ準備もできず、仕事もできない状態。それが八日の晩にでも終了してからもかかつてくるのである。

「デモ途中に車に乗せてもらったので、お金を払いたいけど」とか、「デモには参加できなかったけど、取り組みにカンパしたので振込方法を教えて下さい」など、翌日から電話がはいつた。このように取組終了後まで反響があつたなどと言うのは、職業としても労働運動・大衆運動を四二年間やってきて初めてのことだった。

大津地裁の大英断に応え 大津地裁の三月九日高浜原発再稼働停止仮処分決定の大英断に依えて、**「原発全廃！ びわ湖一周デモ2016」**が五月四日から八日まで実施され、福島原発震災被災者や伊方原発再稼働反対、東京・タンポポ舎など全国の市民運動や韓国の学生を含め、近畿内外から七〇〇人が参加した。

最終日、五月八日に大津地裁に到着し、デモ参加者一同で声援を送つた。そして四日の出発地・JR大津駅に予定の一六時に到着し、五日間でデモは約一〇〇キロ、三日目の「車デモ・アミーバデモ」含めて二三五キロのびわ湖一周を達成した。

反原発闘争史上初のびわ湖一周デモだし、そもそもあらゆる課題でデモでびわ湖一周というのは初めてだ。すぐに滋賀県教育会館で集約集会を開催。百人で満席となる。五日間通してデモを貫徹したのは十数人の方。「正直きつかった。足の豆もすり切れた」と滋賀県内六〇代男性。「私たちの思いは届いた。」と京都の社会福祉士の女性。

土砂降りの中、七千枚のビラを撒く 事前案内ビラは三刷二万四千枚、本番中に三日目のアミーバデモ含めて一万枚ビラ配布、ニュースは準備号含め9号、三団体から三台の宣伝車提供を受け、二月から数限りない集会・会議でビラ配布と訴えた。三日目の「アミーバデモ」とは四〜五人くらいで路地裏作戦「モモタロウのミニバンが長浜市内七班、高島市内三班で各班七〇〇枚のビラをまききり、ハンドマイクで訴え、旗指物で宣伝し、「大雨の中でやったのが良かった」という参加者の感想も。まいなびしょびしょ、ぐじゃぐじゃになった。

高浜町内原発現地に「若狭の家」をつくり、「若狭の原発を考える会」が二年で八〇回のアミーバデモを積み重ね、最初はけんもほろろだったのが、最近ほとみに手ごたえのある反応となつているという。

脱原発市民ウォーク・イン・滋賀も五年前の五月八日、三〇〇人の市民参加で初めてが（最初はせいぜい二〇人くらいだしデモ申請なしでと考え、警告が来たので「五〇人申請」しようとしたら一〇〇人に警察から修正させられ、当日結果三〇〇人参加

加！）ずっと二〇〇三〇人と低迷してきた。デモのたびに大雨・台風もよく来た。その五〇回目記念デモでもあった。やって良かった。

「原発全廃街道」とよんでもらえるよう びわ湖一周デモ到着の先々で大きなお寺の住職さんや神社の宮司さん、三・九仮処分決定獲得の井戸謙一弁護士、元自治体首長・市民派の県議・市議さん、カンパをしてくださったジョギング中の医師、三井寺での月例・オーガニックマーケット開催の仲間などがデモを待ち受けていただき、多彩な激励を受け、大きな一石を近畿・一六五〇万人の命の水源・国内最大の湖に投じることができた。

呼びかけピラに「朝鮮人街道」という道があり、質問も出ていたので、京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏さん（戦争をさせない一〇〇〇人委員会の京都でも、滋賀でも共同代表）に、デモ初日と二日目の休憩時間に、朝鮮通信使のミニ講義をしていただいた。豊臣秀吉の蛮行を謝罪し、友好を深めるため、江戸時代に一二回にわたる使節団を朝鮮から徳川政権は招いた。五〇〇人の朝鮮通信使と一五〇〇人の日本人随行者が歩いた道を、今もお滋賀県民は親しみを込めて「朝鮮人街道」と呼んでいる。差別性は全くなかった。

私たちが五日間歩んだ道を、後世の人たちに「原発全廃街道」と呼んでもらえるように、さらに頑張ろうと声をかけあっている。

(二〇一六・五・一七 さいななら原発・びわこネットワーク事務局長・稲村 守)

米軍元海兵隊員による沖縄女性殺害

— 十分な対応と真相究明、米軍の撤退を求める要求書 —

どんな言葉を書いても、その軽さにたえられない気がする。しかし、沈黙はさらに許されない。人殺しのプロになるために、日夜の訓練がある海兵隊。そんな万余の米兵が、沖縄では市民社会のなかに生活を共にしているのだ。

沖縄の声に耳を澄ませたい。そして、戦争につながるものすべてに反対する、それこそが人間の安全保障であることを刻印したい。「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」などによる声明（二〇一六年五月二〇日）、「元米軍海兵隊兵士の事件被害者を追悼し、十分な対応と真相究明、米軍の撤退を求める要求書」を左記に添付する。

(毛利孝雄の「辺野古の現場から—72—」

記

昨日、五月一九日、先月末から行方不明になっていた島袋里奈さんが遺体で見えられ、元海兵隊員で軍属の男性が容疑者として逮捕されました。この痛ましい現実直面し、何を言うべきなのか。怒りが痛みを持って沸き上がるのを押さえることが出来ません。

この怒りや悲しみに心を配らず、責任回避や矮小化、政治の駆け引き事のように取り沙汰しようとすると声も聞こえ始めています。このようなとき、沈黙を選んではならない。私たちは声を発するためにここに集いました。

私たちは何よりもまず、奪われた尊い命を悼みます。彼女を大切にしてきた人びとが、彼女を想うための時間と機会が損なわれることのないよう、求めます。

私たちは、彼女がどれほどの恐怖と苦しみの中にあっただか、荒ぶるような心を鎮めることが出来ません。沖縄に暮らす私たちはみな、自分にも起こり得たことだと、言葉を失い、その痛み苦しみを共にしています。

私たちは、基地・軍隊の長期駐留が押し付けられている沖縄で、幾度となく繰り返される事件のたびに、被害者を貶める発言や態度にも、幾度となく引き裂かれてきました。被害に遭った人の尊厳が守られるよう、強く求めたいと思います。

今年三月中旬、那覇市内のホテルで女性が米兵による性暴力の被害に遭ったときに、在沖米軍のローレンス・ニコルソン四軍調整官は、「沖縄にいる米軍人、家族、軍属の合計五万人を代表する」と発言して、翁長知事に謝罪しています。あれから二ヶ月しか経っていません。綱紀粛正・再発防止の約束は、また反故にされたのでしょうか。この責任はどのように果たされるのでしょうか。

私たちは「軍隊は構造的暴力組織であり、平時と戦時とを問わず、人間の安全を保障しない」と訴え続けてきました。基地・軍隊は、人間の心と身体を深刻なまでに破壊しており、それはフェンスの内と外とを問いません。沖縄に駐留する米軍人・軍属・家族のひとりひとりにも呼びかけます。自分たちには関係ないという態度は許されません。私たちと共に悼み、怒り、抗議の声を上げて下さい。

私たちは、日米両政府、米軍、沖縄県に対して、基地・軍隊の駐留がもたらすこのような現実を直視し、責任ある行動を執るよう、以下のことを強く要求します。

- 一、被害者を取り巻く人びとへの謝罪とケアが丁寧に行われること。
- 一、真実が究明され、加害者への厳正な処罰が行われること。
- 一、沖縄に暮らす人びとの真に安全な社会を実現するため、沖縄から全ての基地・軍隊の撤退を求める。

二〇一六年五月二〇日

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ殿、在日米大使館 キャロライン・ケネディ殿、
在沖米軍 ローレンス・ニコルソン四軍調整官殿、内閣総理大臣 安倍晋三殿、
内閣官房長官 菅義偉殿、沖縄県知事 翁長雄志殿

基地・軍隊を許さない行動する女たちの会、ワンストップ支援センターの設立を強く望む会、
強姦支援センター・沖縄（REICD）、ジェンダー問題を考える会、女団協、I女性会議、
新日本婦人の会、沖縄県母親大会連絡会、冲教組、高教組、SEALDS琉球、
安保法案に反対するママの会@沖縄、那覇ブロッコリー、ピースキャンパ沖縄準備会、
合意してないプロジェクト、沖縄県内学生有志、わんから市民の会、

◇ 読者からのおたより ◇

日本初 日々のご奮闘に敬意を表します。これからもご活躍を期待しています。私も厳しい情勢ですが精一杯がんばっています。来年一〇月には「ラフティングボート」の世界大会を日本で初めて開催します。

編集部より 連日のご奮闘に敬意です。「ラフティングボート」日本初すごい！成功を祈るや切。
(徳島・黒川征一)

須摩子さん No.1217 読んでます。菅原須摩子さんは長野県佐久市の住人に。和歌に詠まれたように新しい地でも種を撒き活躍される事と推察しました。北海道・道東の各地では真夏日の所が：とテレビ報道、身体に堪える暑さです。

(東京・兼子千栄子)

ここが問題! 高校の世界史の教科書にマルクス、エンゲルス、そして「宣言」「資本論」が出て来ますけど…。しかし、受験勉強で名前を覚える程度で、きちんと読む人、ほとんどいないのですね。資本主義の生産様式の中で、経済が発展するなり、経済成長することがどう言うことなのか、これが問題なのに…。右も左もまん中?も「アベノミクス」の成功?失敗?を論ずるのですが、成功しようが失敗しようが、資本主義の蓄積の一般法則、俗に言う窮乏化法則は貫徹していること、そこが問題なのに!「資本論」本当に読まれていない、あるいは理解されていないと思います。未だにガリレオやダーウインを認めない人達が世界の大半!、マルクスの学説が理解されるには、時間がかかるでしょうね。

(松本・中澤秀行)

編集部より おっしゃるとおり。原則語られずにいるのです。

それとなく全力つくす いつも、たくさんの情報をありがとうございます! 本日、メール購読料一年分送りました。余分がありましたらカンパです! いま、山口県光市では、参院選にむけ超党派で取り組み、事務所も確保、市民運動の方が中心になって頑張っています。私もわかからそれとなく全力を尽くすつもりです。「山口から政治を変えよう」がスローガン!

(山口・玉木節子)

編集部より ご健闘に敬意です。過分なカンパをいただき感謝です。

カンパです 長い間、ありがとうございます。なかなかPC見づらく、「紙通信」終るをもつて、購読を終えさせていただきます。わずかですが、カンパいたします。

(兵庫・井上力)

編集部より 長い間のご購読に感謝です。ホームページは、これまでより楽しくなると思います。PC画面の見ずらさは確かですが、時には開いて見てくださるよう期待したい。

メール通信 秋からホームページのみとなるとのこと、これまでご苦勞さまでした。せめてメール読者にはホームページのURLを書いてメール通信を発行ごとに出していただくと読み忘れがなく、これまで同様に思われます。ご検討をお願いします。

(茨城・大井信三)

編集部より 提案に心から感謝です。ご期待に添えるよう検討します。お楽しみにお待ち下さい。PC・HPなし 最後の送金となりました。時代おくれか、PC、HPなしです。平和と民主主義、学ばせていただきました。ありがとうございます。

(北海道・工藤伸)

編集部より 工藤さんと同様のおたより少なくありません。申し訳なく思っています。**あまりにも強引「避難指示七月解除」** 被害者住民をどこまでおいつめるのか 安倍政権は、福島原発事故の避難地域の解除を、二〇一四年四月から次々におこなってきました。除染も不十分なままに「避難指示」を解除すれば、それは原発被害の深刻さを覆い隠し、「除染」をしない口実をつくり、帰還住民を被ばくにさらすことになりす。

あわせて「帰還困難区域」とされた地域以外から避難している一〇万人近い住民への「精神的慰謝料」は一八年三月で一律打ち切りが決定。住宅補償(借り上げ)打ち切りも決めようとしています(自主避難者の借上げ住宅補償は一七年三月で打ち切り)。

こうして退路を断って住民を「帰還」に追い込もうとする政策は、本当に冷酷です。そこまでして原発事故を「なかつたこと」にしてしまおうというのでしょうか。オリンピックを前に、事故の生き証人を消そうというのでしょうか。除染への疑問相次ぐぞういう中で、避難指示解除対象者数は最大の南相馬市(避難者一万一七〇〇人)で七月一日ごとに「指示解除」の提案が、政府の原子力災害現地対策本部からなされました。政府は四月に「解除」しようとしたのですが、反発されて中止していました。しかしこんどは強行するつもりでしょうか。

五月一日、一五日、二一日、二二日に、南相馬市で解除案の住民説明会が開かれました。政府の現地対策本部の示した理由は、「九割の宅地で除染を終え、年間被ばく量は20mSv以下になったから解除する」ということだけでした。大勢の住民から「宅地のすぐ周りは線量が高いところがたくさんある」等の意見、疑問や不安が山のように出されました。しかし政府側担当者は「高いところは追加除染する」というだけなので、住民は「それなら追加除染の必要なくなつてから解除しろ」と反発、紛糾しました。

いきなりウインドーズ10に 当方のパソコン、いきなりウインドーズ10になり、当惑しましたがEPSOONのサポートで7に戻すことができホットしています。

(東京・三木信之介)

編集部より 「通信」のPC一台も、先月中旬いきなりウインドーズ10になってしまいました。通信の入力編集で、生きた心地がしませんでした。私どもは戻し方もわからず、不安でしたが、期限の仕事もあり、そのまま使い続けました。ストレス大、マイクロソフト社への怒り心頭です。